

はじめに 学習会の位置づけ

I. 自公政治退場の意義 革新勢力の存在が作り出した情勢

①日本の階級闘争の軸 支配層の共産党封じ、

- ・ 「第二の反動攻勢」「共産党のぞく」「二大政党づくり」
- ・ なぜ、財界が誕生させた民主党が「生活第一」を掲げざるを得なかったか

② 核兵器廃絶 世界の変化がアメリカにチェンジを迫った

- ・ アメリカの世界からの孤立と影響力の低下が背景に
- ・ 「核兵器廃絶」を訴えたオバマ演説の背景 ～ もはや制御不可能に
- ・ 世界の世論で前向きの変化の促進を

II. 国民のノーの審判を下した「構造改革」路線とは・・・ 女性運動の視点から

①日本資本主義を女性運動の視点から見る

- ・ 世界にもまれな長時間労働と性差別を結合した搾取の体制
- ・ なぜ、安い女性労働を、財界は排除するのか

②75年の転機・・・男女平等の新たな動き

- ・ 女性の生き方の見直し～ ウーマン・リブ
- ・ 高度経済成長の終焉
- ・ 均等法をゆがめた財界～「過労死の男女平等」の強制
- ・ 資本主義における労働者支配と男女差別～ 「支配」と「差別」

③「構造改革」は、男性正社員を中心とした企業統合社会を破壊した

- ・ 福祉と非正規雇用・最低賃金の問題がはじめて国民的課題に ～女性運動が主に担ってきた運動

III. 「女性の世界史的復権」へ、世界的な前進が始まった

①女性解放の道 ～ 古典から学ぶ

- ・ なぜ今、エンゲルス「家族、私有財産及び国家の起源」か
- ・ 世紀を越えた卓見 ～ 男女平等には法律的平等だけでなく現実の暮らしの中での平等が必要

②女性の社会的平等がいまや世界の共通課題に

- ・ 世界／社会の変革の運動を追い越した女性解放の運動の前進
 - 政治的平等 女性参政権は普遍的原理に
 - 巨大な変化が起こった社会的平等の分野
- ・ 女性差別撤廃の2つの焦点
 - 職場での平等を確立
 - 家事の面で女性が担う負担を解決する問題
- ・ 転換点となった「女性差別撤廃条約」
 - 過去の「女性の世界史的敗北」に対する「女性の世界史的復権」の時代のはじまり
- ・ 日本／女性問題は、「ルールなき資本主義」の集中的な表れ
- ・ ヨーロッパとの違いは、社会的反撃の力の違い

IV. 男女平等社会の実現のために

- ・ 新しい政権のもとで開かれた可能性
- ・ 運動上いくつかの論点
 - 女性差別撤廃の位置づけを広範な国民のものに
 - 男性支配という古い社会を、男性と協力して社会全体の力でつくりなおす運動
 - 女性差別撤廃の本格的展開は、民主的政権に発展して行く事業